

委員からの提案資料

提案者：河野 博子委員

★「一人として置き去りにしない、人と自然が豊かで楽しい杉並」を念頭に  
(SDGs 前文にある NO ONE LEFT BEHIND 精神を打ち出す)

★気候危機のリスクを減らしたまち を第一の目標に掲げるべき  
(環境問題は人の健康と関係ないという誤解がある。実は密接な関係あり)  
(「環境、地球にやさしく」 ➡ 「対策の有無は人の健康、生き死にを左右」)

★気候変動対策のうち、特に適応策（被害軽減策）として、建物の断熱改修に  
力を入れるべき

理由：建築環境・省エネルギー機構理事長の村上周三氏らは、建物と健康に関する  
研究を重ね、①壁に断熱材を入れたり窓を二重ガラスにしたりして断熱性能を  
高めると、冬場の平均室温は4度高まり、死亡率も減る②40年前の一番古い基  
準をクリアしているもののそれ以降の基準に合致しない住宅は約4割で、既存  
住宅の断熱化は進んでいない（国の施策は新築中心）③英国など室温の推奨温  
度を決めている国も多い。国交省が2019年1月24日に報道発表した村上氏ら  
の研究では、建物の構造・室温と高血圧、過活動膀胱症状、脂質異常症、糖尿  
病、聴覚の衰え、骨折・ねんざ・脱臼などとの相関関係が高いことが明らか  
になった。

★気候変動の緩和策（温室効果ガス排出削減策）としては、災害時の避難所となる  
場所での再生可能エネルギー導入100%を目指す。同時に、電力制度改革の行方と  
流れを見ながら、抜本的な策を研究し、実行していく。交通・運輸に関しても、同  
様に研究検討を進める。

★環境負荷を減らすゴミ減らしに取り組む

★農業支援、自然体験、生物調査を行う NGO や NPO を区としてバックアップ。

★★★「居場所づくり」の話が多く委員からでていた。一人暮らしの高齢者やこ  
どもも来られて、支援者支援のベースにもなるような居場所を作り、そこを環境対  
策のモデル基地にしたらどうか。例えば、そこでは太陽光、小風力発電も行う、マ  
イボトル用の給水スポットもある、プラごみの回収所もある、断熱もしっかりでき  
た建物で、様々な断熱改修の方法、費用、実施企業の紹介をし、区の補助への申請

も受け付けるコーナーもあるなど。

★★★ 断熱改修は、個々人の既存住宅を対象に考えると、難しい。まず段階的に、病院、介護施設、デイケアセンター、ショートステイ、リハビリを行う場所などの建物の実態や室温を調べ、区の支援により断熱改修を進める、それをモデルに、一般の住宅に広げるなどの方法をとったらどうか。

この断熱改修は、適応策（被害軽減策）に分類されるが、同時に、夏の冷房、冬の暖房を減らすことで、エネルギーの消費量を減らす⇒排出削減策にもなる。